

地域を支える 変える 高知大 21

創立75周年

心が軽やかになる明るい色使いと、雨や傘、草花などのハーモニー。 する成果が極度に重視される今。「時間を費やして何度もやり直し、自己高知大学教育学部の野角孝一准教授(42)が描く日本画だ。時間、費用に對 表現する意義を、学生にも伝えていきたい」と力を込める。

日本画追求 五感で描く!



時間かけ物事、己を見つめる

違いは接着剤
私の研究テーマは日本画です。私の作品を見て、これは日本画?西洋画?結局何が違うの?と疑問を持つ方もいらっしゃいます。
日本画は、明治以降に入ってきた西洋画と、それまでの日本の絵を区別するために作られた言葉です。違いを簡単に言うと接着剤です。絵の具の材料は鉱物を砕いた顔料などで、接着剤として油絵の具は植物の油、水彩絵の具は樹液、日本画は牛乳のコーラゲンである膠が混ぜられています。これを和紙や絹、麻、板などに描いたのが、一般的な日本画です。水に溶ける接着剤なので、塗って乾いた後でも水でかすなど、油絵にできない表現が可能です。
制作過程も独特で、写生から塗り始めまでの工程が多い。写生▽大下図(線を描いた下書き)にするため拡大▽大下図をなぞり紙に線を転写▽転写された線を墨で描く骨描き▽墨で陰影を加える墨ぼかし▽貝殻からできた白い顔料で下地作り▽背景の色などの地塗り▽モチーフ。写生から構写まで何段階も同じモチーフを描き、構成や構図など調整を繰り返して作品を練り上げる。何度も考える機会を持つのも日本画のよいところです。

教育学部 野角孝一准教授



高知大学のアトリエで絵筆を執る野角孝一准教授 (高知市曙町2丁目の朝倉キャンパス)



イタリアのベネチアの離島、プラーノ島で写生を行い制作した「運河の先へ」

絵金派屏風を復元中 流派復活に期待



一部欠損した大下図から復元された大下図 野角准教授が

日本画制作と並行し、幕末の絵師「絵金派」の流れるをくむ「絵金派」の芝居絵屏風の復元に2016年から取り組んでいます。
最初に手掛けた作品は7割が欠損しており、同じ題材の屏風絵や絵金派の作風を調査、研究しました。剥がれた破片を電子顕微鏡で分析し、絵の具や紙を特定できました。客観的証拠も踏まえて欠落部を想像して描き、6年がかりで復元を完了しました。今は22年に発見された芝居絵の下書きから、屏風を完成させようとしています。見つけたのは下書き全体の6割ですが、絵の題材を特定できたので、登場人物や動き、着物の柄なども推定し、下書き全体縦1.6m、横1.8mほどの想定復元を完了しました。これからは彩色し、来春公開したいと思っています。
絵金は江戸で狩野派の画風を学び、土佐藩家老の御用絵師として活躍しました。作風は弟子たちが絵金派として継承し、昭和初期まで続きました。
流派は途絶えましたが今回の想定復元を通じ、当時使用していた絵の具や画材などが分かってきました。流派の筆運びや彩色などを徹底的に練習し、技術や画風を会得しました。この技術を私だけにとどめるのはもったいない。多くの人に伝え、絵金派が復活できたなら面白い。練習は大変ですけどね。
古い作品の保存はもう一大事です。ただ、絵金派の弟子、孫弟子たちが描き続けたように、現代を生きる私たちも新しい絵金派の作品を描き続けることが大切だと思います。

広い知識で高知振興へ スポーツ・芸術文化共創専攻

今年4月、高知大学大学院に「スポーツ・芸術文化共創専攻」が新設されました。1期生は5人。それぞれがスポーツや健康、芸術を専門に研究しています。私は芸術分野担当で、日本画を指導しています。
面白いのはスポーツ、音楽、美術の専門を持ちながらも一緒に学ぶ点。美術館やスポーツセンターなどの施設を共に訪れて現場の課題を知り、お互いの発表を聞いて視野を広げます。専門知識の地域還元に必要なワークショップのノウハウも身に付けてほしいと思っています。
目指すのは主体的に考え、学び、実践する人材の育成です。学生が問題意識を持ち、追求する専門家となって、将来、高知県の文化やスポーツの振興といった地域課題に取り組むことを願っています。

和牛本来の魅力で勝負

レストラン モンシエルトントン

「ステーキは輝くダイヤモンドみたい」。目を輝かせるのは「レストラン モンシエルトントン」の店主、窪内理恵さん(43)。ステーキ愛が高じて昨年、ステーキ中心のメニューに一新しました。使うお肉は10社以上を食べ比べ、信頼を置く業者から直接仕入れしています。「黒毛和牛は刺し身で食べられそうなのと新鮮で、できるだけ手を加えない」。素材本来の魅力で勝負しているそうです。
注文したのは、ガッツリ食べたい学生にはもってこいのステーキ丼(1300円、写真)。ライスの上にロースやカルビが積み重なり、しょうゆベースのソースをかける。さらに食欲を刺激する香りが広がります。口に入ると、レアな焼き加減でしっとり柔らかい。赤身の濃厚な味わいと、肉質の違いも楽しみながら、おいしくいただきました。
南国市後免町1の8の35。午前10時半～午後2時半、午後5～8時。水木定休、月火は昼のみ。電話



088・864・4522(予約不可)。(学生広報スタッフ・中山貴翔=人文社会科学部2年)

西日本大会で優勝

西医体で優勝し、喜び医学部サッカー1部(岡山県美作市)ながら練習したりと医学部特有のしんどさもありますが、サッカーをすれば元気が出ます。
チームの目標は、西日本医科学生総合体育大会(西医体)での優勝です。昨年は4位に終わりましたが、チーム一丸となって練習を重ね、昨年11月の四国大会は準優勝、今年6月の中四国大会は優勝しました。44大学が出場した8月の西医体も勝ち抜き、見事優勝できました。
社会人1部リーグに参加して技術を磨き、試合前には相手チームのプレー動画を見て弱点を突く戦略を練りました。これらの努力が好成績につながったと思います。ただ、今月行われた全医体では、出場4チーム中3位。守備に力の差を感じたので、練習で鍛え、来年リベンジします。(主将・矢野創太=医学部3年)



西医体で優勝し、喜び医学部サッカー1部(岡山県美作市)

◆第4火曜日掲載

高知大学 × 高知新聞 共同編集